



第 7 号  
昭和50年3月1日発行  
豊中・サンマテオ  
姉妹都市協会  
事務局 豊中市企画部  
企画課(854)1121



## ミス桜の女王来豊！

1974年度サンフランシスコ市桜の女王に選ばれたサンマテオ市民のミス  
マジョリエ藤木嬢、昨夏7月22日美の使節として来豊。

# 美の女王来豊!!

昨夏7月22日、1974年度ミス桜の女王マジョリエ藤木嬢が母君きよさんと共に来豊しました。

これは、毎年サンフランシスコ市が春に行なっている桜祭でミス桜を選ぶもので、1974年度は、我が姉妹都市サンマテオ市民の日系三世の彼女が選出されたものです。そして選ばれた女王は、サンフランシスコ市の姉妹都市である大阪市を親善訪問するのが恒例で、彼女も先ず大阪市を訪ね其の後、サンマテオ市長よりのメッセージを携さえて豊中市を公式訪問しました。



サンフランシスコ市内をパレードするマジョリエ嬢

たまたま、下村市長が公務出張の為、林助役がメッセージを受け取り、彼女は無事親善訪問の責を果たしましたが、林助役ならずとも、美人の来豊は大歓迎といったところです。

彼女は、住友銀行サンマテオ支店に、つい先頃迄勤務しており、細川治男住友銀行豊中支店長の盡力もあって、この公式訪問が実現したものです。そもそも、豊中市とサンマテオ市が昭和38年に姉妹都市の契を結んだ際にも、加州住友銀行の協力があつたのであり、其の意味で今回の訪問は意義深いものです。

彼女は日本語こそ喋れませんが、物腰、態度は、日本の娘さんと全然変らない控え目で明るい娘さんでした。

一体、日系米人は、心情、礼儀作法、考えなどがほとんど我々と変りがなく、ついアメリカ人であるという事を忘れるほどで、日系人の子弟に対する厳しい仕付けが窺えます。

午後は、企画課員の案内で服部緑地を訪れ、サボテン公園では、園長原野圭司氏より古い日本の民芸品の説明を受け、熱心に聞き入っておりました。



林助役と微笑の握手

# 第3回高校英語弁論大会

今はもう当姉妹都市協会の年中行事となった高校英語弁論大会が本年度も去る11月16日、市民会館で開かれました。

これは、昨年(48年)、一昨年(47年)に引き続いて3回目であり、姉妹都市事業として、市村会長、下村豊中市長はもとより、関係職員が最も力を入れている行事の一つです。

毎年PRの拙さの故か、当初は応募者の出足が悪いのであり本年もこの点憂慮されたのですが、各高校の先生、英語学校の先生、市の広報機関の協力により最終14名の優秀な生徒に絞ることが出来ました。

本年からは、出場資格豊中市在住、市内高校通学という枠を外したため、広い方面から優秀な生徒の参加がありました。

唯、惜むらくは、男生徒が14人の内1名という淋しきで、今後男生徒の奮起が望まれます。そして出場者の学校の内訳は、次の通りでした。

池田高校	1	名
梅花学園高校	3	名
被昇天学園高校	5	名
箕面高校	2	名
小林聖心女子高校	1	名
追手門学院高校	1	名
宝塚高校	1	名



開会前風景

又、サンマテオ市当局もこの大会には多大の関心を寄せており、サンマテオ市長ジョンFコンドン氏から下村市長宛に激励のメッセージと共に、エルカミノベルのレプリカが、サンマテオ市長賞として送られて来ました。

エルカミノとは、アメリカ大陸開拓時代に、カリフォルニアで教会とインディアンの集落を結んでいた歴史的な道の

名称であり、其の後これを記念して同名のベルが、多数道標として設置されたという由緒のあるものです。

さて、本年も昨年に引き続いてチーフジャッジとして、大阪アメリカンセンターよりナンシー坂本女史が派遣されました。

女史は、卓抜した審査員として、府下のみならず全国的にも著名な人であります。

又、昨年に引き続いて、府立豊中高校教諭宮城弘善氏、豊中市嘱託川合隆子氏をジャッジにお願い、本年より新たに、新進気鋭の池上武氏(豊中市立教育研究所指導主事)、村上光久氏(大阪北YMC A講師)の両氏を招聘しました。

いずれも、英語教育の各部門の優秀な専門の先生方です。

大会は市村会長の、つづいてユーモアにあふれた下村市長の挨拶で始まりました。

会場には、子弟を気ずかう父兄、励しの先生、友人達が70~80人も来られ、出場者は緊張の面持ちで壇上に登りました。



黒一点?で奮闘する坂本君

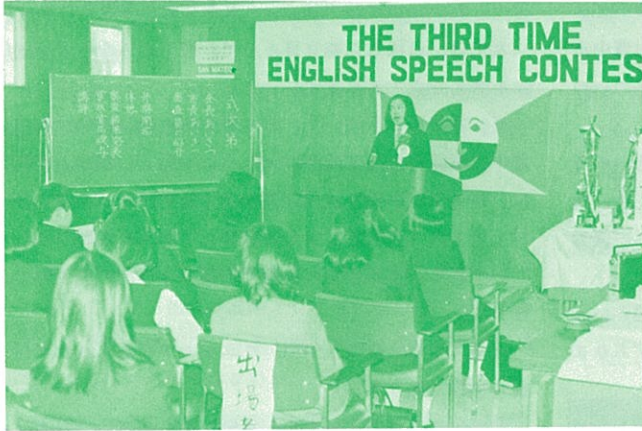
弁論者は、あらかじめ協会より出題の「私の生きがい」「私の愛読書」「旅の思い出」の3題より1題を選んで5分以内で弁論を行なうわけですが、さすが各校選りすぐりの選手だけあって、素晴らしい出来でした。

唯、緊張の余り、日頃の実力を十二分に発揮されていない生徒さんも見られたのは、残念でした。

入賞者の審査は、上位が伯仲していた事もあり、審査員の先生が慎重に審査した結果、次の通り決定しました。

優勝	田淵	とも子	小林聖心女子高1年
2位	森	啓子	被昇天高3年
3位	地神	圭子	梅花学園高3年
4位	小谷	由紀	被昇天高3年
5位	北之坊	邦子	箕面高2年

優勝した田淵さんには、協会長賞のトロフィ及びサンマテオ市長賞のエルカミノベルが市村会長より、第2位の森さんには島岡助役から豊中市市長賞が、以下の入賞者には協会長賞が授与されました。又、参加者全員に、参加賞が授与されました。



#### 女生徒の弁論風景

協会としましては、予算の関係もありますが、今後、賞については、色々と考えて行きたいと考えています。

テーマ「私の愛読書」を選んで優勝した田淵さんは、各審査員共に一致して、高位点を付けておられ、発音、抑揚、

態度共素晴らしいものでした。後程聞いた事ですが、本人は留学をした経験もなく、又、特に外人について学んだ事もないとの事でした。唯、数年にわたり毎日ラジオ、テレビの英会話を欠さず見ているとの事で、語学の習得には、日々の積み重ねが如何に大切であることを示唆していると思われま

す。勿論、学校の先生の指導が最も大切であることは言うまでもないと思います。

全般的に見て、チーフジャッジのナンシー坂本女史の講評にもあった様に、レベルは毎年アップしているのですが、矢張り、発音とジェスチャーにいきさかの問題があるようです。

協会としましては、来年度も是非開催したいと考えております。

本年入賞された方、惜くも入賞を逸された方、来年も奮って参加して下さい。

又、ご兄弟、友達にも応募をすすめて下さるようお願いします。

最後に、絶大なるご協力を賜りました各高校の先生方、民間英語教育機関、審査員の先生方に対し、心よりお礼申し上げます。



前列(入賞者) 左より5位北之坊邦子(箕面高2年)、3位地神圭子(梅花高3年)、優勝田淵とも子(小林聖心女子高1年)、2位森啓子(被昇天高3年)、4位小谷由紀(被昇天高3年)、中央左より島岡助役、市村会長、永見企画部長、後列左よりナンシー坂本、池上武、川合隆子、宮城弘善、村上光久各審査員(敬称略)。

It is only with the heart  
that one can see rightly.

## —審査員のひとりとして—

豊中市立教育研究所  
指導主事 池上 武

"It is only with the heart that one can see rightly;  
what is essential is invisible to the eye."

(人は、心の目を通してはじめて、すべての事象の本質を、正しく捉えることができるのであって、肝じんなことは、目には見えないのである。)

これは、優勝した田淵さんの愛読書、サン・テグジュペリ作「星の王子さま」の中で、主人公の王子さまが、きつねに教えられたことばですが、田淵さんは、これをスピーチの山場で引用されました。世間の大人達が、すっかり忘れてしまっている真理です。

弁論大会では、なんといっても、聴衆の心の琴線に触れ、美しい共鳴音をつくりだすものがなくてはなりません。弁士と聴衆とが一体となった、ハーモニーの世界ほど素晴らしいものはありません。優勝者の演説には、これがありました。けがれない純な心が、素直に、首尾一貫して、明確に、焦点化されていました。易しいことばで、なるべく具体的に常にいわんとするところが、はっきりしていることが、大切です。このためには、原稿を書くにあたって、多くの友人達と話しあい、その人達の反応を確かめてみることです。それから英文原稿は自作後、可能な限り、学校の英語科担当の先生方か、信頼のおける英米人に眼を通してもらって、文法上の間違いや、不自然な表現等を訂正していただいた方がよいでしょう。言うまでもありませんが、演説とは、暗記したものを必死で一息にしゃべり通したり、書いてあるものを一字一句まちがわないように棒読することではありません。演説者の全人格が、ひとりでの、にじみ出てくるものです。自分のものを、自然に、ゆとりをもって語り、ともに同じ考え、同じ感情をもってもらいたいと、はたらきかけるものなのです。

第二位の森さんのスピーチ内容も、素晴らしいものでした。それは、夕焼空の美しさのように、鮮やかなフィリピン旅行の印象記でした。「なんでもみてやろう」との旺盛な意欲で、充実した数日間の数々の体験を、自己や日本とのかかわりあいと、将来への展望の中で語り、聴いている私達の国際理解を、一層深めてくれるものでした。彼女は、最後を次のように生き生きとしたスピーチで結びました。

"If you see a Japanese girl walking in the streets, call out 'Hi!', because perhaps it's me!"

(もしもフィリピンの通りで、日本の女の子が歩いているのを見かけたら、気軽に、「こんにちは」と声をかけて下さい。何故なら、多分その女の子は、わたしだからです。)

以下、惜しくも入賞を逸した方々も、語法上に多少の問題はあるにしても、内容に関しては、高校生らしい抱負、体験、身近かな事柄についての感想を、素直に論じている点で好感が持てました。

弁論大会では、各出場者は、平素倦まず憊まず練習してきたものを、わずか数分間のうちに発表し、審査員は、その間に次々と、出場者の発音、抑揚、内容、語法、話し方の態度等を採点し、全員で協議のうえ、順位を決定します。今回も、かなりの時間、慎重審議のうえ、全員一致で判定結果を出しました。

やはり中等教育段階でするので、全体的印象や内容も勿論ですが、音声面に半分以上の重みがかかります。口先だけでペラペラと早くしゃべるのではなく、十分に休止をおいて、胸や腹から出る声、低くても強く遠くまで響く声が望ましいものです。個々の音や単語の正しい発音だけではなく、文章全体の発音、すなわちintonation(抑揚)、sentence stress(文の強勢)といったものが、演説では重要です。この外国語の文全体のリズムとかメロディを修得することは至難のわざですが、理解してもらえる英語をしゃべるためには、どうしても努力して、その理想に一步でも近づかななくてはなりません。

審査委員長のナンシー・サカモト女史の講評の要点は、次のようなものでした。

前回にくらべて、全体としての水準の向上がみられ、その標準的水準も、かなり高い点はよろこばしいことである。特に大部分の出場者が、聴衆の顔を見つめて、ゆっくりとポーズをとって、ひとりひとりに話しかける態度を身につけていた。しかし、やはりまだ、[r]と[l]、[ə:]と[a:]、[θ]と[s]等、日本語にない音は、混同がみられ、より一層の練習にはげむ必要がある。イントネーションは向上してきた。ジェスチャーについてはspeech talkingのちがいが、すなわちspeechではtalkingほど手を使わないこと、要するに、内容にマッチして、自然にでてくるものであり、突然のオーバーなジェスチャーは差し控えた方がよい。もう一つの指摘は、speechは舞台上で演劇を演ずるのとは、おのずと異なり、強調したいときの一つの技法として、大きな声をはりあげておげさに表現するのではなく、スピーチの速度を落したりすることなども有効である、というような示唆をいただきました。

私がかつとも残念であったことは、はじめての経験からの上気や緊張のためか、一部に記憶が不十分な方々があったことです。暗記が不完全であったなどということは問題外でして、十二分に練習を積み、平素と同じ落ち着いた調子で、実力を発揮してほしいものです。

最後に、学校現場で熱心に御指導下さいました諸先生方、弁士の演説に積極的な反響を示して下さいました聴衆の方々、なによりも潑刺たる弁論を聞かして下さいました14名の弁士の皆さんに、深く感謝の意を表しますと共に、今後、一層精進され、次回には、更により多くの男女高校生が出場なさることを、楽しみに待っております。

## 「トロフィーを手にして」

小林聖心女子高一年 田渕とも子

「参加することに意義があるんですからね」などと自信のない者の僻みを口走りながら、私はこのスピーチコンテストに参加する決心をした。今まで4年間、国際語である英語を1人の学生として学んできた。その事実をもう一度はっきり認識したかったからだ。

同じ地球に住む、同じ人間でありながら、違う言葉を使って意志の疎通を困難にしているなんて、ひどく不合理だ。万国共通語があったら、と何度真剣に思ったか知れない。そして今日、日常生活の中に浸透し、その役割をはたしている英語を、私は学びつつある。

中学の頃から英語の必要性を信じて、地道に勉強してきたつもりだった。初めは混沌としすぎていたが、最近になってふと不安を感じた。今まで得た知識は皆、頭の底に淀んでしまっているのではないかと――。



協会長賞に加えて、サンマテオ市長賞を市村会長より受け取る田渕さん

単語は知っているも、文章が作れない。文章はできても、それが口から出てこないという具合だ。それでは通信の手段として何にもならない。大切なのは、むづかしい単語や文法を知っている事ではなく、ことば―英語を通じてお互いに語り合うという事なのだから。和文英訳ができるだけでは、なく言葉が意志疎通の手段として、生き生きと伝わってこなければだめなんだという事がわかったのだ。

このスピーチコンテストは、口から流れ出る英語をつかむためのよい勉強になった。以前はアルファベットの巧みに並んでいる本とらめっこしているだけに感じたが、今ではその1文字1文字が、生き生きと動き出した様だ。「ムダに4年間費してきたんじゃない。私だって満足 of いく程ではないが、国際語としての英語を通して思っていることを相手に伝える事ができる。」と密やかな自信を得た。

しかし、あのトロフィーの重みが、これからの遠い道のりを物語っている様だ。この貴重な経験を、これからつきあたるであろう壁をやぶる、大きなはげましにしたいと思う。

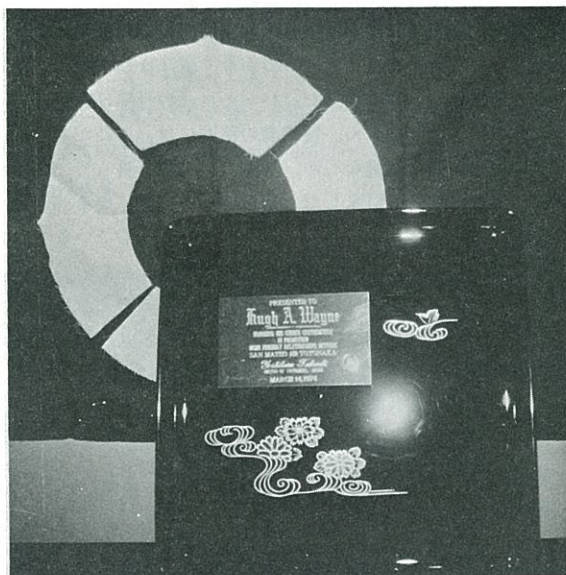
## ＊ 姉妹都市だより ＊

### 「公職引退記念の楯賜る～ ウエイン元市長へ」

去る昭和49年3月14日、サンマテオ市で、サ市市議会及びサンマテオ市商工会議所主催で元サンマテオ市長ヒューAウエイン氏の公職引退記念祝典が開かれました。氏は、サンマテオ市議を勤める事12年、其の間、市長を4回、助役を3回歴任し、豊中市との姉妹都市事業に多大の貢献をした人であります。

現在は、ウエイン広告会社の社長を勤めておられます。

氏の功績を称える為、豊中市では、サ市と協力して、竹内義治元市長名で楯を賜る事になり、祝典の席上、ウエイン氏に授与されました。残念ながら竹内元市長は祝典に出席出来ませんでした。代って、ウエルチ市長が手渡しました。



ウエイン元市長へ賜られた楯

### 「アンダーソン副会長夫妻の 金婚式行なわる」

昭和38年10月の姉妹都市提携証印式に来豊され、自来サンマテオ市姉妹都市協会日本委員会会長として活躍し、現在サ市姉妹都市協会副会長であるエルマア S アンディ・アンダーソン牧師夫妻の金婚式が去る昭和49年6月16日、サンマテオ市で開かれました。

夫妻には、既に7人の孫と4人の曾孫があり、式にはマレー市議(元市長)をはじめ多くの市関係者や、ジム中田氏など姉妹都市協会役員多数が参列し夫妻の金婚式を祝いました。

今後共益々元気で活躍して欲しいものです。



金婚式に走せ参じた友人、知人達と



## 「ライオンズクラブの 双子提携なる」

去る昭和49年7月5日、サンフランシスコ市のベンジャミン・フランクリンホテルで、豊中ライオンズクラブとサンマテオ市ライオンズクラブの「双子提携」が証印されました。

これは、かねてよりサ市ライオンズクラブより「双子提携」の申し入れがあったもので、7月4日にサンフランシスコで行なわれたライオンズ世界大会に出席した丹治佐平会長が、この機に提携を行なったものであります。

なお、豊中南ライオンズクラブとサ市ダウンタウンライオンズクラブとの「双子提携」は、同年4月に、サ市ダウンタウンライオンズクラブ役員のジム中田氏が会長秋山二郎氏を訪れた際になされております。

因に、ライオンズクラブ同士の提携は、姉妹提携とは言わず、「双子クラブ」というのだそうです。

## 「メアリー・アンダーソン女史 グアム島へ」

初代サ市姉妹都市協会会長で、ここで改めて紹介する迄もなく皆さんが良くご承知のメアリー・アンダーソン女史が、この度、住みなれたサンマテオ市を去って、グアム島に移住されました。

不幸にも、この度離婚されたものであり、新天地を求めて、グアム島のアガナ市へ居を構えられたのであります。グアム島では、女史の兄弟が数年前より商売をされており、彼女はここで装飾関係の仕事をする予定です。

これまで彼女が関係していた公共活動の一部分を記してみると次の通りです。

豊中～サンマテオ姉妹都市協会、アメリカ赤十字国際奉仕委員会、外人学徒協力協会、日本～米国民連盟、フィリピン協会、職業婦人連盟、サンマテオ仏教徒教会、米国ガールスカウト連盟、サンマテオ日本庭園協会、サンフランシスコアンソニー教会。

去る6月14日、サンマテオ市レクリエーションビルディングで、サ市姉妹都市協会、アメリカ赤十字サンマテオ支部、ユナイテッドネイション地方支部の主催で送別会が開かれ、数百人の参列者が彼女と別れを惜みました。

会員各位で、グアム島に行かれる機会があった時は、是非、彼女を訪ねて下さるようお願いいたします。

## 短 信

3月5日 サ市姉妹都市協会会計理事ジム中田氏、同氏の所属するダウンタウンライオンズクラブと豊中南ライオンズクラブとの「双子クラブ提携」の為来豊。

秋山二郎南ライオンズ会長と協議。提携成立。

5月30日 昭和49年度総会（於豊中市市民会館）。会員約60名出席。



総会で挨拶する市村会長

7月16日 国際親善都市連盟第15回総会（於日本都市センター）。

7月18日 豊中ロータリクラブ交換学生ジェイン・シャリングハウス嬢、デニス・アレグリア嬢、中嶋弘同クラブ会長、森本要氏及び末野明氏ならびに植田高三氏と共に、来庁。下村市長と彼らの学生生活について意見の交換を行ないました。

なお、サ市へ派遣される豊中ロータリクラブの学生福島鶴美嬢、妹尾弘和君、渡辺紹代嬢も出席し、下村市長の激励を受けました。



#### シャリングハウス嬢、アレグリア嬢などと会談する下村市長

7月22日 昭和49年度サンフランシスコ桜の女王ミスマジョリエ・フジキさん来豊。

10月14～18日 サ市姉妹都市協会役員ジョン湯本氏夫妻来豊。

かねてよりサ市姉妹都市協会では、夏期の交換学生の制度（特にサ市の日系学生を対象に）を活発化したいと考えており、今回、氏が其の意向を携えて、来日したものです。

これに対し、会談した下村市長は、豊中市としても、姉妹都市協会をバックアップして前向きに検討したい旨回答しました。

10月16日 第3回高校英語弁論大会。

12月21日 追手門学院大学生下村忠功君、冬期休暇を利用して、サンマテオ市を訪問し、コンドン市長と交歓。

## — 新 会 員 紹 介 —

昭和貿易株式会社（社長 末野 明）

喜 田 嘉 代 （豊中市婦人団体連絡協議会）

上 芝 常 一 （レストラン経営）

後 藤 雄 豪 （丸福産業社長）

岡 本 茂 雄 （豊中市役所）

樋 口 金次郎 （豊中市役所）

奥 村 数 好 （ " ）

直 原 与 聡 （ " ）

菅 尾 邦 助 （ " ）

広 瀬 真 信 （ " ）

南 川 佳 伸 （ " ）

福 田 国 次 （ " ）

富 永 誠 二 （ " ）

西 川 隆 （ " ）

藤 井 武 （ " ）

横 田 進 （ " ）

小 川 幸 雄 （ " ）

古 山 豊 （ " ）

中 川 善 博 （ " ）

福 原 常 喜 （ " ）

政 比呂志 （ " ）

梶 木 至 純 （ " ）



### 編集後記

49年度は、世界的な不況の為か、豊中市を訪れるサンマテオ市民も少数でした。

なかでも、6月23日頃から来豊し、豊中の青少年と試合を行なう予定であったサンマテオ市男子中学生サッカーチームの来日が、資金不足の為中止になった事は、我々は勿論、準備をしていた豊中のサッカーチームにとって誠に残念なことでした。

必然的に、サンマテオ市を訪れる豊中市民も少なく、十分な都市提携事業が出来なかった事をお詫びします。

今後も、世界の経済状況の好転も早急には望めないと思いますが、種々の行事を企画し、都市提携の炎を絶さぬよう努めて行きたいと考えておりますので、変らぬご協力を賜りますようお願いいたします。